

平成30年度

(2018年)

事業計画書

平成30年4月1日から

(2018年)

平成31年3月31日まで

(2019年)

公益財団法人 ノーマライゼーション住宅財団

平成 30 年度 事業計画

はじめに

【環境認識】

昨年は我が国の近隣で、長距離弾道が複数発飛んだり、核実験が行われたり、一気に緊張状態になるなど我が国の外的環境は複雑な動きに巻き込まれました。その為、平成 30 年度の防衛予算はかつてないほど高額になっています。ヨーロッパでは英国の EU から離脱、アメリカでは新大統領トランプ氏掲げるアメリカファーストの様々な影響等が、いわゆる分断社会へと動かし、外的状況はさらなる混迷を極めています。

一方国内に目をやると、昨年も自然災害が人々を苦しめ、とりわけ少子高齢化の波は止めることができず。また、経済面をみると、アベノミクスの推進により、雇用・所得環境の改善が続く中で、緩やかな回復基調が続いている。海外経済が回復する下で、輸出や生産の持ち直しが続くとともに、個人消費や民間設備投資が持ち直すなど民需が改善し、経済の好循環が実現しつつ、各種政策の効果もあって景気回復により、受給が引き締まる中で上昇し、デフレ脱却に向け前進が見込まれる。

又、北海道経済の現状は、緩やかに回復している。個人消費は、雇用・所得情勢の改善を背景に緩やかに持ち直しているものの、設備投資や公共投資は足元堅調に推移している。住宅投資は減速している。

今後を展望すると、個人消費は、原油高に伴うエネルギー価格上昇が重石となるが、雇用・所得改善から、緩やかな持ち直し基調を維持することが見込まれる。住宅投資は、金融環境の変化などによって貸家への投資マインドが後退し減速が強まり、設備投資は、前年の反動から幾分減少するものの高水準を維持する。公共投資は補正予算の執行や台風被害の復旧工事が、ピークアウトし景気を押し上げるが効果は徐々に弱まる。又、高水準の前年を上回り、観光関連ではインバウンドの増勢が続き、好調を維持すると思われる。

【基本方針】

今年度は、当財団の設立 30 年の節目の年となり、平成 30 年度の事業計画としては、基本財産運用の継続、更なる管理面の充実向上支援を通し、予算管理の徹底、財産運営を行い公益に資する法人として、現状を踏まえ継続し、高齢者や障がい者が安全で安心して快適に暮らせる住生活の整備向上の支援を通して、全ての人が生きがいを持って生活できる社会づくりと社会福祉の増進に寄与する事業をさらに継続し取り組んで参ります。又、ネットの時代に対応し当財団のホームページをさらに見やすく・わかりやすく、常に新しい情報を更新し、多くの視野を広げて対応していきます。

【事業計画】

I. 福祉住宅の建築に関する助成及び情報提供事業（公益目的事業1）

（1）助成金による福祉住宅建築支援

当財団設立以来、第30回目を迎える建築助成事業として今年も多方面から募集し継続していきます。少子高齢化にともない高齢化社会が進んできている中、高齢者や障がい者がもっと安全・安心して快適に暮らせる住宅、また、将来身体機能等が低下しても安心して生活できる住宅の普及を目指します。福祉住宅として新築・リフォームされた建築主、およびグループホームや高齢者向けアパートなど福祉小規模集合住宅の建築主から広く数多く応募を受付し、有識者による審査のうえ今後の参考に資する施工物件に対し助成金を給付します。

又、助成を受けられた施工物件に対して、ご提案等のアイデアを設計・施工された施工業者様に感謝状を贈呈しています。

（2）福祉住宅建築助成事例集「ふれあい」発行

助成建築主へ直接取材を行い、今後の福祉、介護面等の参考となる事例や建築に関するアイデアなどを、当財団情報誌により広く提供していきます。

また、専門家のアドバイスや、工夫した点、実際に暮らしてみても感想なども数多く綴られております。冊子「ふれあい」及び「ふれあい総集編Ⅱ」は、地方自治体及び社会福祉協議会など関係諸機関及び福祉団体関係への講演資料として配布をし、広く地域の皆様に役立てていただきます。

II. ノーマライゼーション理念の普及啓発事業（公益目的事業2）

（1）広報誌「^{ウィズ} ^{ライフ} WITH LIFE（共に生きる）」発行

福祉に関する情報を掲載し、ノーマライゼーションの理念と実践を紹介する当財団の広報誌です。

ノーマライゼーションを実践されている方々の対談やインタビューをはじめ、福祉事情の紹介や福祉住宅の設備、福祉機器、快適で便利なシステムなど、役立つ情報をわかりやすく紹介していきます。「ふれあい」同様、地方自治体や介護支援の事業所及び社会福祉協議会など各関係諸機関に配布し、社会福祉の増進に役立てていただきます。

(2) 小・中学生による「安全・快適アイデア」コンテスト

当財団は、「すべての人が共に暮らし共に生きることがノーマル（正常）である」というノーマライゼーション理念の普及・啓発を図るため、子どもたちにアイデアを考えていただき“広いところ”を育てます。

おとしよりや障がいを持つ人たちが、明るく楽しく生活できるアイデアや、安全に外出を楽しめる環境づくり等について多くの提案をしてもらいます。

本年度で第23回目を迎える「小・中学生による安全・快適アイデア」コンテストは、作品を募集し継続していきます。受賞を受けられた小中学生には、盾・表彰状・図書券・参加賞などを毎年工夫し、数多く小・中学生の皆さまに楽しく参加して頂けるよう運営します。

また、例年入賞発表している展示場所（さっぽろ地下街オーロラ会場）を多くの市民や小中学生の皆さま・ご家族に見て頂く為にも目の着くような場所を再検討しております。

(3) 福祉事情に関する情報収集及び提供

昨年同様、本年度は30年の節目として視察研修先として、国外のドイツ方面を視察先に検討しており、有識者や社会福祉法人からの情報や数多くのアドバイスを頂き、計画実行して行きます。

他にあらゆる福祉全般に関する情報収集を目的として、有識者や福祉関係者等に呼び掛け、福祉住宅状況や福祉事情など把握し研修視察をし、視察研修報告書及び「WITH ^{ウイズ} ^{ライフ} LIFE」等でレポートにて発表していきます。

Ⅲ. その他事業

公益法人としての責務を自覚し、この法人の目的を達成するため積極的に事業に取り組んでいきます。